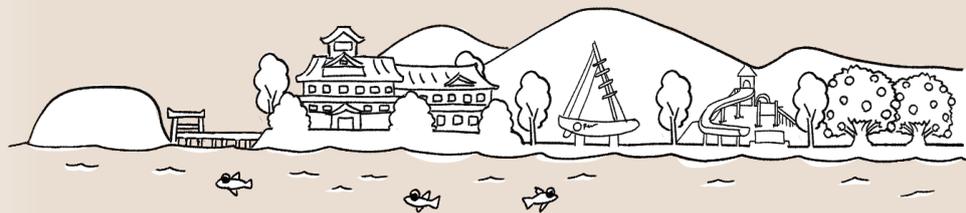


第2章

緑の現況

1 蒲郡市の概況	9
2 緑の現況	10
3 緑化に関する取組	14
4 市民アンケート結果	18



1 蒲郡市の概要

(1) 位置・地勢

本市は、愛知県の南東部の東三河沿岸部に位置し、東側に豊川市、西側は西尾市・幸田町、北側は岡崎市に接しています。JR東海道本線が主要公共交通機関として機能しており、蒲郡・名古屋間を約40分で結んでいます。鉄道に加えて、国道23号バイパスなどの幹線道路で諸都市と結ばれ、東名高速道路へも容易にアクセスが可能です。

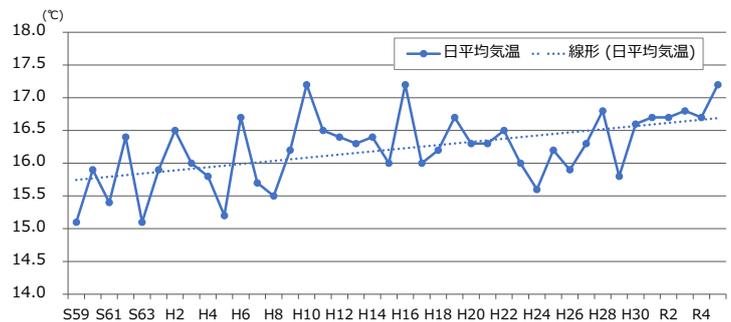


市域の北と東西の三方は御堂山・五井山・遠望峰山・三ヶ根山の山地に囲まれ、南は三河湾に面した、風光明媚で温暖な地域です。

三河湾に面した低地に市街地が形成され、その周辺の丘陵地には果樹園が広がっています。また、市内には、温泉郷やマリナー施設が点在し、多くの観光客が訪れます。

(2) 気温の推移

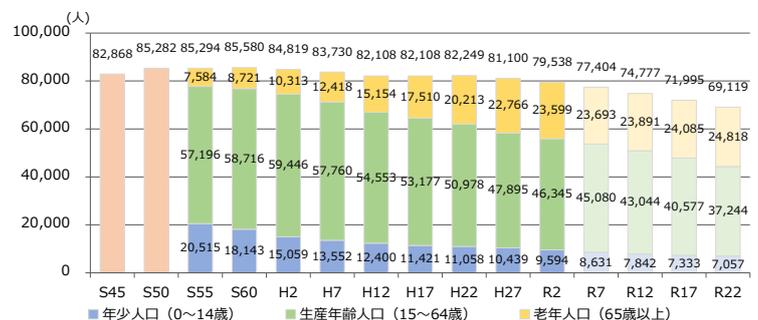
昭和59(1984)年から令和5(2023)年まで40年間の年ごとの日平均の気温の推移と傾向をみると、年により変動があるものの、上昇傾向にあります。



※線形(日平均気温)は日平均気温の推移を直線で近似したもの
資料：気象庁データ(気象庁HP：気象統計-蒲郡年ごとの値)より集計

(3) 人口の推移

本市の人口は、昭和60(1985)年をピークとし、その後減少しています。また、年齢区別では、年少人口や生産年齢人口が減少する一方で、老年人口は増加しています。



令和2(2020)年の全人口に対する老年人口の割合は29.7%と高齢化が進んでおり、人口減少、少子高齢化の進行が予測されています。

資料：(R2以前)国勢調査、(R7以降)国立社会保障・人口問題研究所(R5推計)

2 緑の現況

(1) 緑地の量

施設緑地^(※1)は市域全体で約183.6haあり、このうち約108.7haが市街化区域内に存在しています。

都市公園は市域全体で約23.6haで、平成21(2009)年度以降に近隣公園1箇所、街区公園7箇所を新たに整備しています。

地域制緑地^(※2)は市域全体で約2,782.7ha(重複分を除く)あり、大部分が市街化調整区域内に存在しています。

表 緑地現況量

単位：ha

区分	施設緑地				地域制緑地										緑地現況量 総計
	都市公園	公共施設緑地	民間施設緑地	施設緑地合計	法によるもの						県・市指定文化財	地域制緑地間の重複	地域制緑地合計		
					自然公園	農振農用地区域	保安林	地域森林計画対象民有林	河川区域	国指定文化財					
令和5年度	23.6	120.5	39.5	183.6	1,736.9	714.6	72.0	1,716.4	18.1	1.9	3.5	1,480.7	2,782.7	2,966.4	
平成21年度	21.9	122.5	39.5	183.9	1,736.9	731.0	72.0	1,719.6	18.1	1.9	3.5	1,485.1	2,797.9	2,981.8	

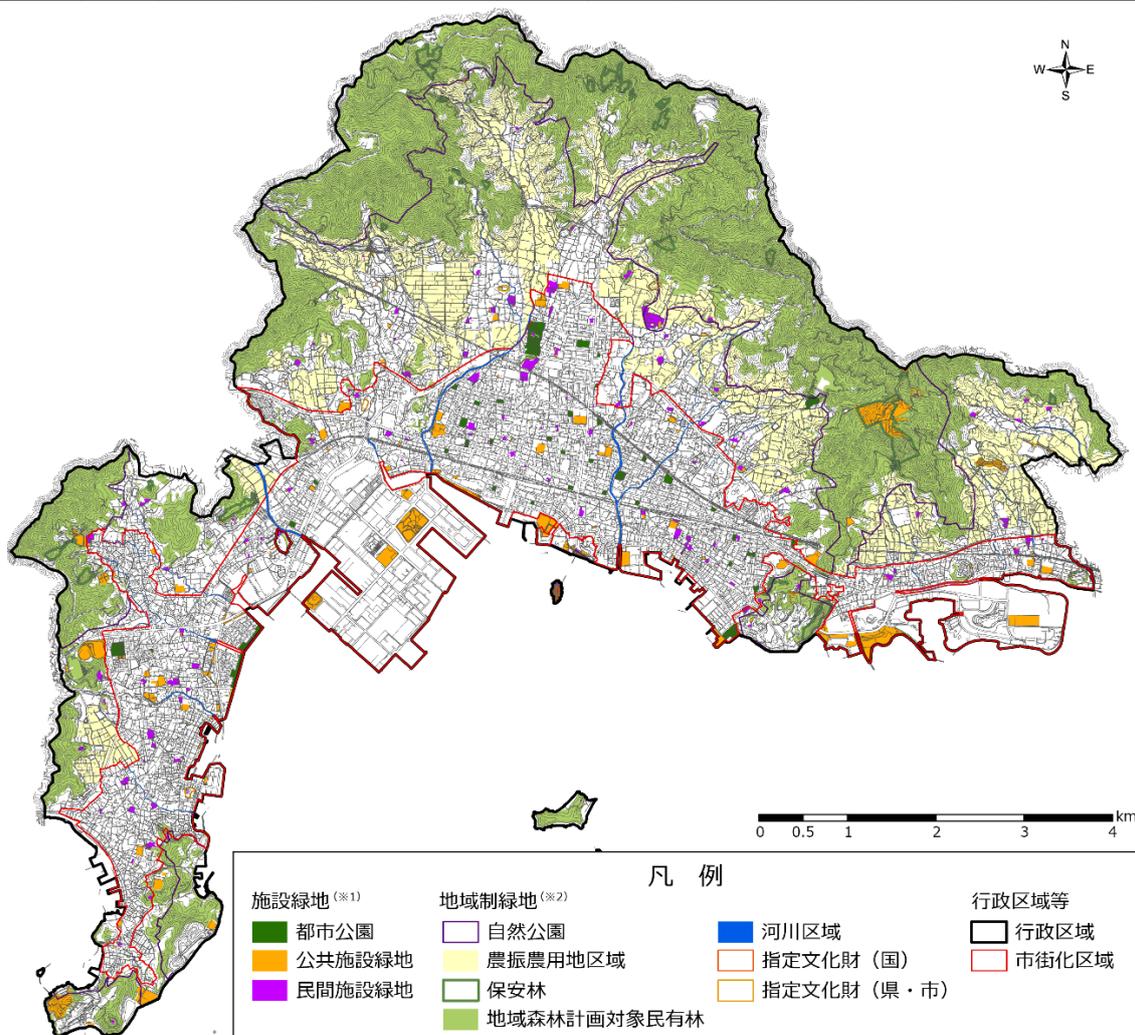


図 緑地現況図(令和5(2023)年度)

※1 施設緑地：都市公園や、都市公園以外の公園緑地に準ずる機能を持つ公有地、民有地の緑地。

※2 地域制緑地：良好な自然環境などの保全を図るために、土地利用や開発を規制する目的で、一定の土地の区域を法律や条例などにに基づき指定する緑地。

(2) 緑被の現況

市全体の緑被面積は約3,307haであり、緑被率^(※)は市域の約58%となっています。内訳では、山林が最も多く、市域の約34%を占めているほか、次いで果樹園が約12%を占めており、これらを合わせると市域面積の半数近くとなります。

市街化区域における緑被率は約19%で、前回調査時(平成21(2009)年)と比べると約3.6ポイント下がっています。現在施行中の蒲郡中部土地区画整理事業地区内で緑被地の減少が顕著となっています。

表 緑の現況量

	区分	山林	田	畑	果樹園	草地	植栽地	水面	緑被面積計	市域面積	
										うち市街化区域	
令和5年度	面積(ha)	1,930.17	45.55	170.95	701.16	238.16	158.86	61.84	3,306.69	391.54	5,696.00
	比率(%)	33.89	0.80	3.00	12.31	4.18	2.79	1.09	58.05	19.03	-
平成21年度	面積(ha)	1,942.33	57.32	182.34	775.16	262.99	147.48	67.08	3,434.70	463.26	5,681.00
	比率(%)	34.19	1.01	3.21	13.64	4.63	2.60	1.18	60.46	22.59	-

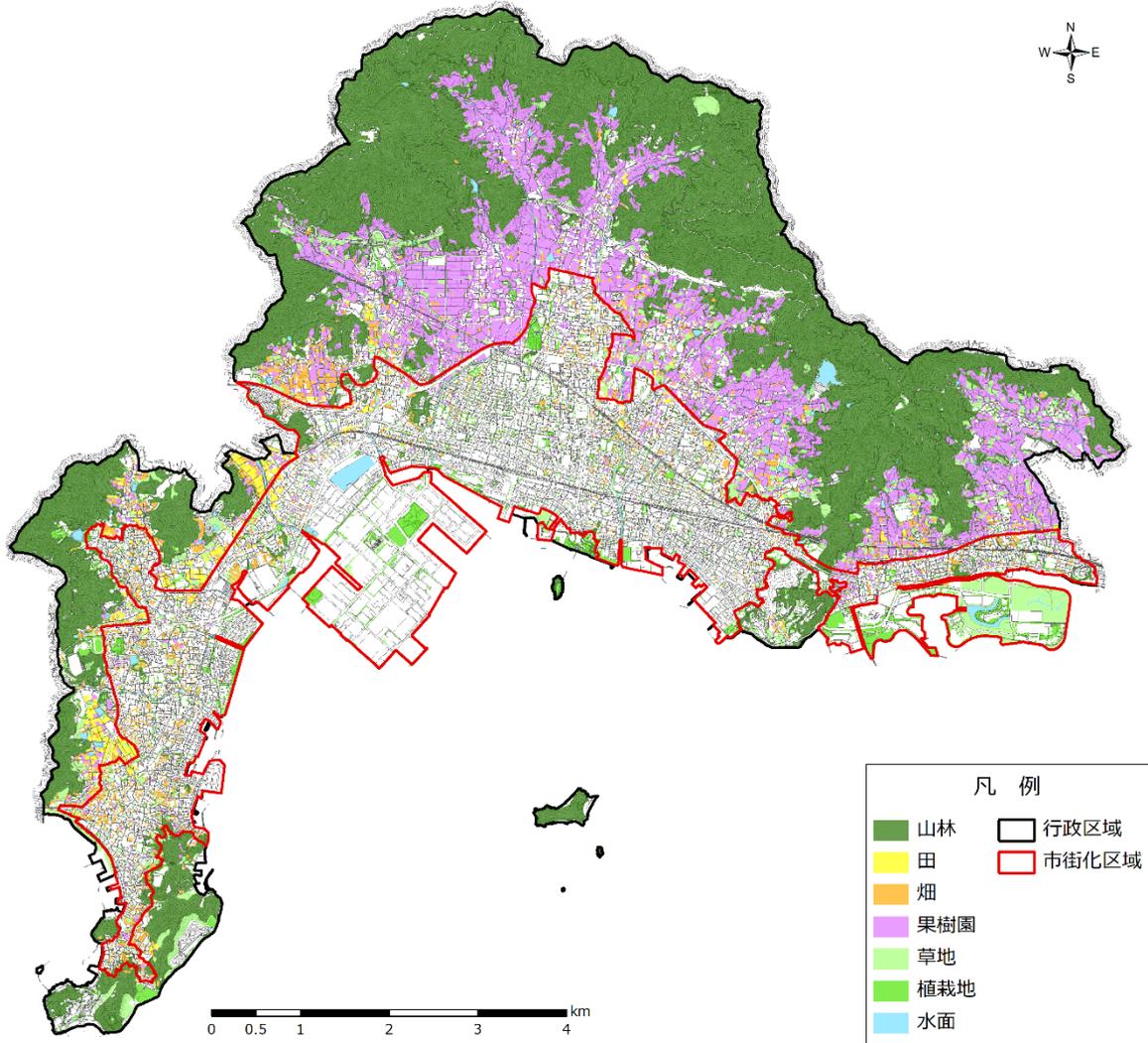


図 緑被現況図

※緑被率：緑の総量を把握する方法の1つで、航空写真などによって上空から見たときの緑に覆われている土地(=緑被地)の割合。なお、対象とする緑は樹林(山林)だけでなく、農地(田、畑、果樹園)や草地、植栽地、水面を含めるものとする。
 緑被地は、航空写真(令和4年度)による判読にて抽出し、土地利用境界に合わせて補正作業を実施した。

(3) 都市公園の現況

都市公園は、土地区画整理事業などの市街地整備が実施された地域に整備されていますが、大塚、西浦中学校区では身近に都市公園の存在しない地域が広範囲に及んでいます。

こうした都市公園の存在しない地域では、児童遊園地などが配置していますが、その規模は1,000㎡未満のものが多くなっています。

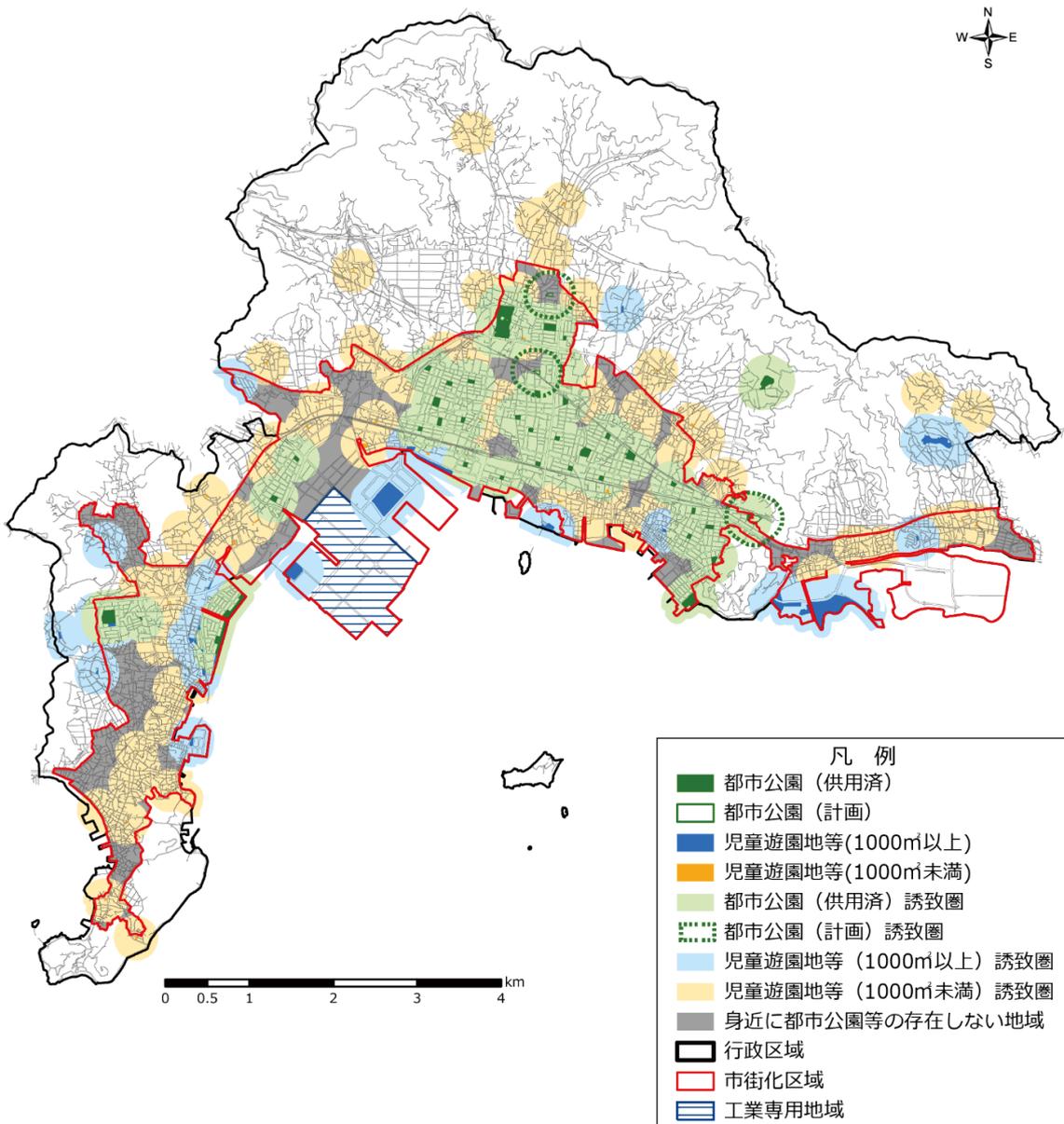


図 都市公園等の配置状況

注) 本図は、身近な都市公園等の配置状況を把握するため、都市公園などの種別に関わらず、街区公園の誘致距離である250mに統一して誘致圏を表示する。

都市公園以外では、街区公園と同等以上の機能を有すると見られる1,000㎡以上の児童遊園地等を対象とすることを基本にしつつ、1,000㎡未満のものについても参考に表記。(運動広場は、事前予約が必要なことから対象外)

(4) 道路緑化の状況

市内の国道および県道や主要な市道では街路樹が植栽されています。

街路樹の樹種は、市役所通はイチヨウ、オレンジロードやマリンロードはイチヨウ、ケヤキ、クスノキ、中央通はハナミズキ、西浦シーサイドロードはヤシの高木が植樹されています。近年、マリンロードにおいて中木のサルスベリに植え替えが行われています。

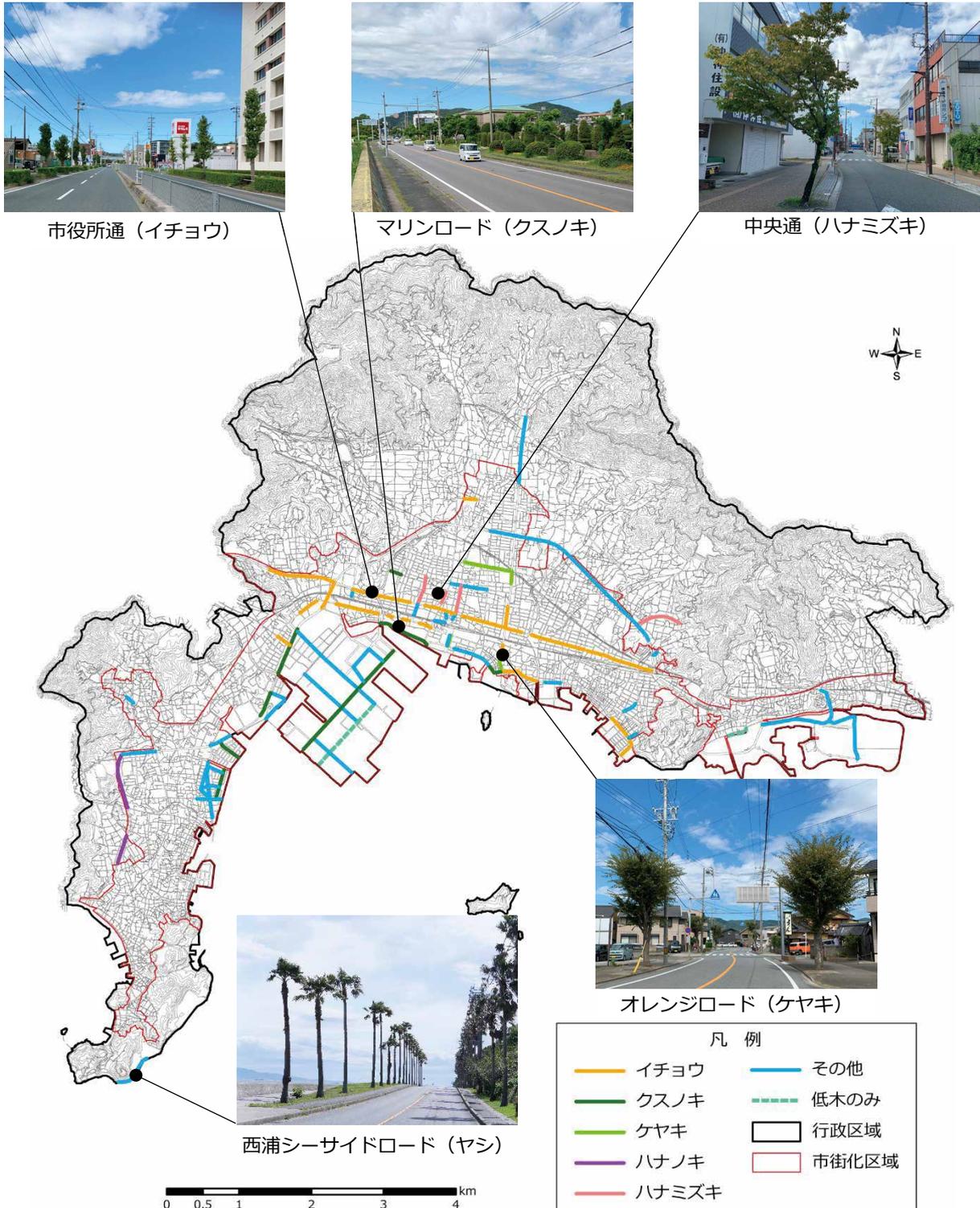


図 道路緑化状況

3 緑化に関する取組

(1) 市民参加への取組

① 蒲郡市緑化事業助成金制度（緑の街並み推進事業）

本市では、愛知県が行う「あいち森と緑づくり事業～都市緑化推進事業～」に基づく間接補助事業として蒲郡市緑化事業助成金制度（緑の街並み推進事業）を創設し補助を行っています。この事業は、市街化区域および市街化調整区域内の既存集落で民有地の建物又は敷地の緑化を進める事業を対象に、助成金を交付するものです。

平成 24（2012）年度以降、毎年 1～4 件程度の申込があり、令和 5（2023）年度までに累計 1,636 m²の緑化が行われています。

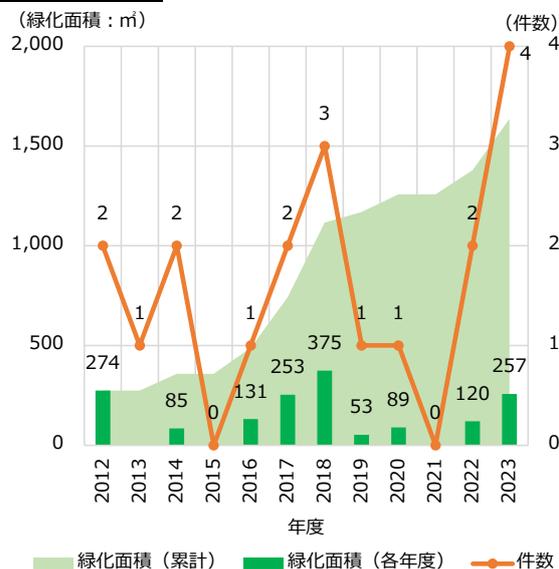


図 緑化事業助成金交付制度実績

【あいち森と緑づくり事業 ～都市緑化推進事業～】

市街地における緑の全体量が減少するなか、都市の緑の保全・創出・活用を一層推進するため、「あいち森と緑づくり税」を財源として、市町村等が行う取組を支援する県の事業。

「あいち森と緑づくり事業」のイメージ

緑の街並み推進

市街地の民有地において、まとまった規模での優良な緑化工事費の一部を助成し、民有地緑化を推進します。

空地緑化（名古屋市）

空地緑化（大府市）

屋上緑化（名古屋市）

壁面緑化（小牧市）

駐車場緑化（名古屋市）

身近な緑づくり

市街地の既存樹林を市町村が買い取り、保全します。市街地において新たな緑地を創出します。

樹林地保全（扶桑町）

美しい並木道再生

都市の顔となる地区の道路において、美しい並木道を再生します。

街路樹の再整備（豊川市）

県民参加緑づくり

公有地で行われる県民参加による緑づくり活動を推進します。

園庭の芝生化（一宮市）

出典：愛知県建設部公園緑地課パンフレット

②蒲郡市公共施設里親制度（アダプトプログラム）

蒲郡市公共施設里親制度は、市民と行政が協働でまちの美化を進めていく制度です。

令和5（2023）年9月時点において登録されている団体数は32団体、登録人数は819人で、本制度を開始した平成19（2007）年から団体数、登録人数とも増加しています。

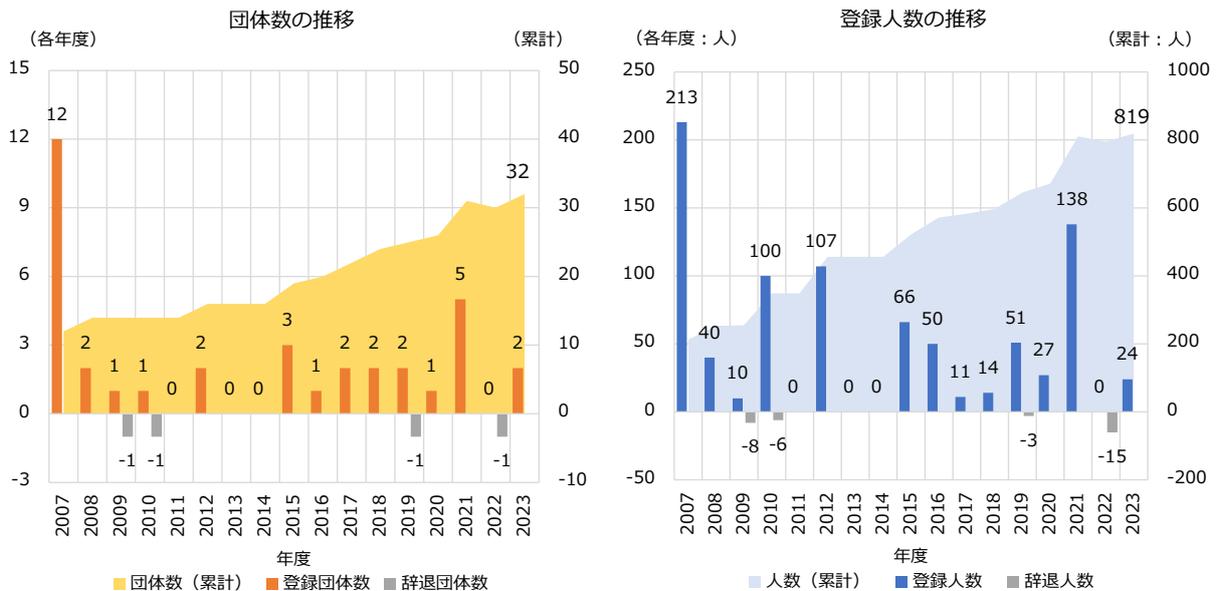


図 アダプトプログラム登録団体数・人数の推移

【アダプトプログラム】

アダプトとは「養子縁組をする」という意味で、アダプトプログラムは「里親制度」と訳されます。

市民やボランティア団体、企業などが「里親」となって、道路や公園などを自らの「養子」のように愛着をもって、定期的に清掃・美化などを行い、行政はボランティア保険への加入や清掃道具の提供などの活動の支援を行います。



出典：蒲郡市 HP

③がまごおり市民企画公募まちづくり事業

自治会・市民活動団体が自主・自発的に行う公益的事業活動に対して事業の経費を助成し、まちづくり活動への参画意識を高め地域の担い手の育成を図ります。

《本事業の例》

▶ 「小学校と地域協働の畑づくり事業」 <小江まちカフェ>

(平成 29 年度 はじめの一步部門)

地域の子の顔と顔がつながるような場をつくろうと始まったのが小江まちカフェです。小学校の中で使われていなかった畑を地域のおじさんたちと耕し、そこに児童も混ざって、自然と会話の生まれる場をつくっています。



▶ 「山での健康づくりと交流は五井山から」 <蒲郡山友会>

(平成 25 年度 はじめの一步部門)

五井山系を宮路山、本宮山のように多くの人に親しまれるような登山道にするための整備を行いました。あまり活用されていなかった五井山南面の旧登山道をほぼ復活させ、立て札を設置したところ、歩く人が増えました。ハイキング行事を開催することで、五井山の魅力を伝えています。



▶ 「花はまちを創る 未来へと！」 <がまごおり花フル会>

(平成 29 年度 ほとぼしる情熱支援部門)

観光交流立市である蒲郡市を市民の力で花と緑あふれる、元気な楽しいまちへと環境を変えていくこと、市民交流、協働の場の提供になることを目的に、表玄関口である蒲郡駅南口北口広場にプランター花壇の設置をしました。まちなかを花で美しくし、花のある暮らしが定着、浸透し潤いのあるまちをつくります。



出典：蒲郡市 HP

④緑に関するイベントの開催

●自然観察会

里山の動植物と触れ合い、自然の良さを体験する場を提供するため、市では平成 15（2003）年度より自然観察会を実施しています。令和 5（2023）年度は 28 名、令和 6（2024）年度は 30 名の親子が参加しました。



自然観察会の様子

出典：蒲郡市の環境実態
(令和 5 年 3 月)

●森と海的环境講演会

市内の小学生に、森の生態系が川や海（三河湾）の生態系に影響を及ぼしていることを学んでもらうため、平成 19（2007）年度より、森と海的环境講演会を実施しています。令和 4（2022）年度は竹島小学校、令和 5（2023）年度は大塚小学校で開催しました。



森と海的环境講演会の様子
出典：蒲郡市の環境実態
(令和 5 年 3 月)

●植樹祭（県民参加の緑づくり）

身近に緑を感じ、公園に愛着や関心を持っていただくことを目的に、「あいち森と緑づくり事業」を活用した植樹祭を公園の整備時などに開催しています。

表 植樹祭の開催状況

時 期	場 所
令和元年 11 月	水竹公園 (新規公園)
令和 4 年 3 月	新井形公園 (新規公園)
令和 5 年 3 月	双太山公園 (既設公園)
令和 6 年 3 月	松前公園 (新規公園)



植樹祭の様子

●森の文化祭

市民団体が主体となって、さがらの森を中心に毎年「森の文化祭」を開催しています。令和 6（2024）年 4 月に第 23 回森の文化祭が開催され、里山でのハイキングや木工体験、まき割り体験など様々なイベントが行われました。



森の文化祭の様子

●三河湾環境チャレンジ

海の生き物に親しみ、環境問題を考えるきっかけとなるように、平成 17（2005）年より「三河湾環境チャレンジ」が行われています。大学や県水産試験場、竹島水族館など海に関係する様々な団体の協力のもと、環境学習の一環として実施されています。



三河湾環境チャレンジの様子

●拾石川における憩いの場の創造

「拾石川」をかつてのようなきれいで、地域住民が集う憩いの場として甦らせるため、平成 8（1996）年に「未来塾」が結成され、清掃活動や環境学習、地域のにぎわいや活性化を目的としたイベント活動を行っています。



拾石川のこいのぼり

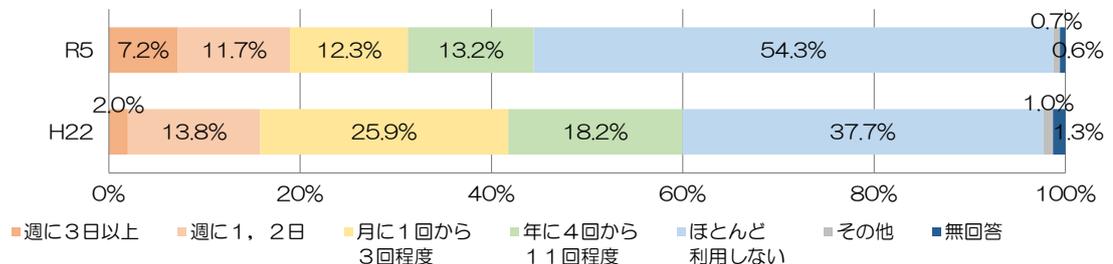
4 市民アンケート結果

(1) 調査概要

- 実施期間：令和5（2023）年10月30日～11月17日
- 調査対象：蒲郡市在住の18歳以上の方の中から1,700名を無作為に抽出
- 調査方法：郵送（アンケート調査票の配布・回収）およびWeb（QRコード・URLをアンケート調査票に記載）にて実施
- 回収票数：707（回収率41.6%）

(2) アンケート結果

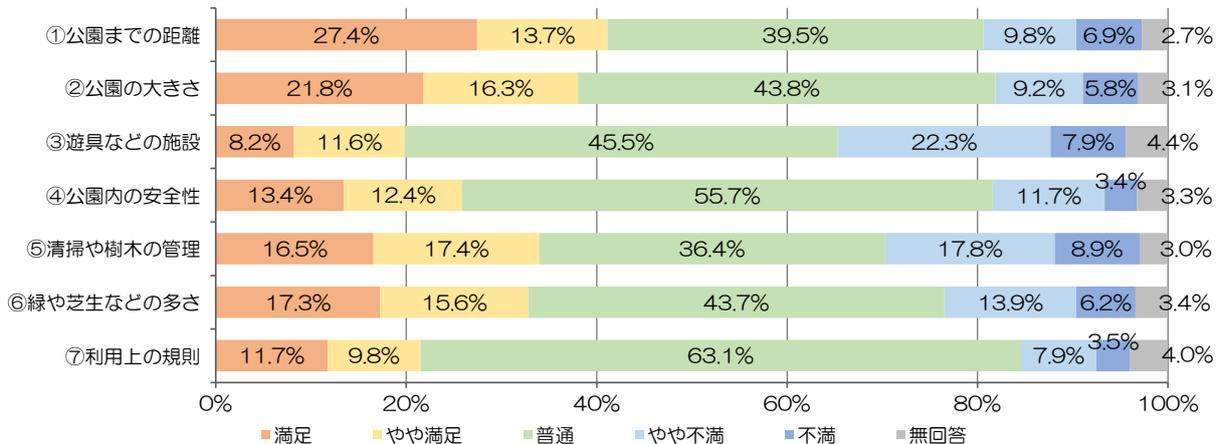
①公園・緑地等の利用頻度



「ほとんど利用しない」（54.3%）が最も多く、半数を超えているのに対し、週1日以上の利用者は20%に達していません。

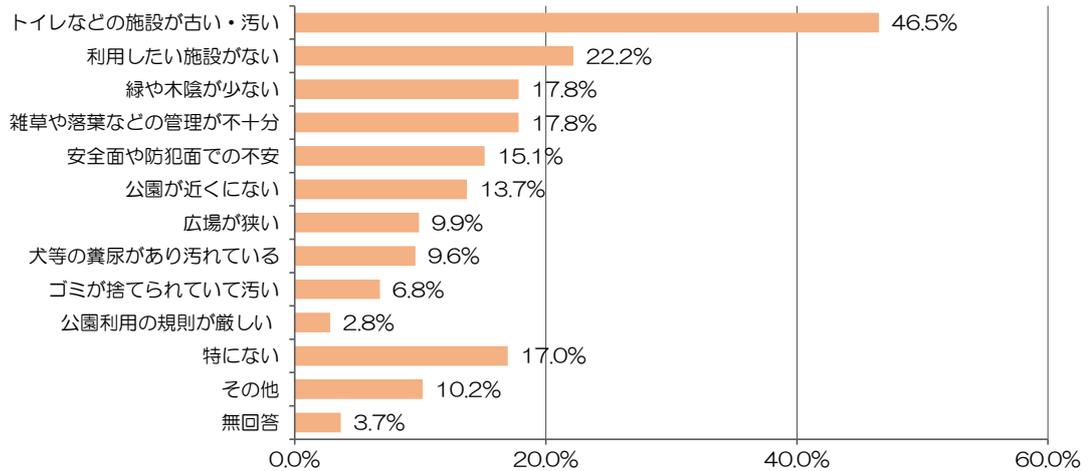
前回調査との比較では、月に1回程度以上の利用者が、前回調査の41.7%に対し今回調査では31.2%と10ポイントほど減少しています。また、「ほとんど利用しない」が37.7%から54.3%と大幅に増加しています。

②市内の公園の満足度



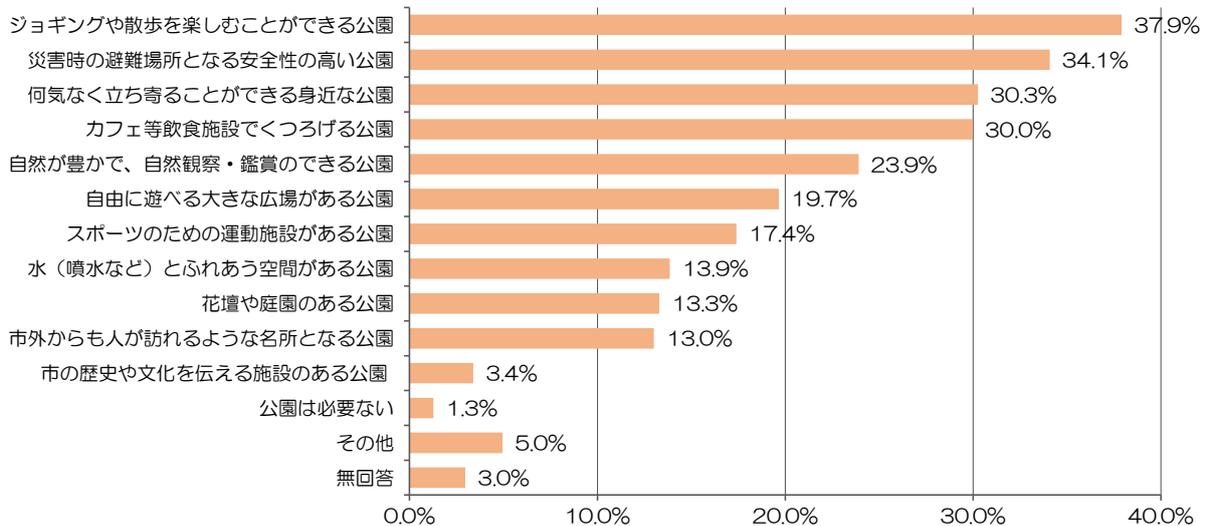
どの項目も「普通」が一番多い中で、「公園までの距離」、「公園の大きさ」に関しては、満足度（「満足」と「やや満足」の合計）が約40%と比較的高いのに対し、「遊具などの施設」、「清掃や樹木の管理」に関して、約30%の方が「不満」、「やや不満」と低調な結果になっています。

③公園に関する問題点・不満（※3つまでの複数回答）



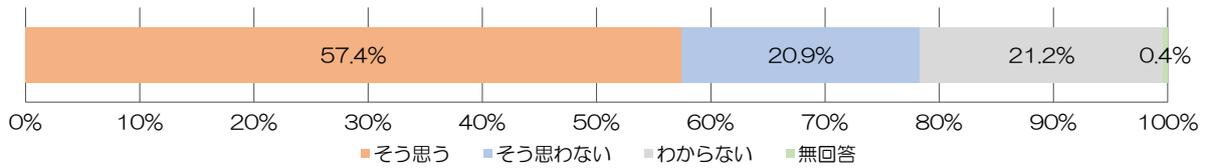
「トイレなどの施設が古い・汚い」（46.5%）や、「利用したい施設がない」（22.2%）といった公園施設に関する回答が多くあります。次いで「緑や木陰が少ない」（17.8%）、「雑草や落葉などの管理が不十分」（17.8%）など、暑熱対策や管理に対する回答が多くなっています。

④今後、蒲郡市に必要と思う公園（※3つまでの複数回答）



多様なニーズが見られる中で、「ジョギングや散歩を楽しむことができる公園」（37.9%）や「何気なく立ち寄ることができる身近な公園」（30.3%）といった日常利用や、「災害時の避難場所となる安全性の高い公園」（34.1%）といった防災機能への回答が多くなっています。

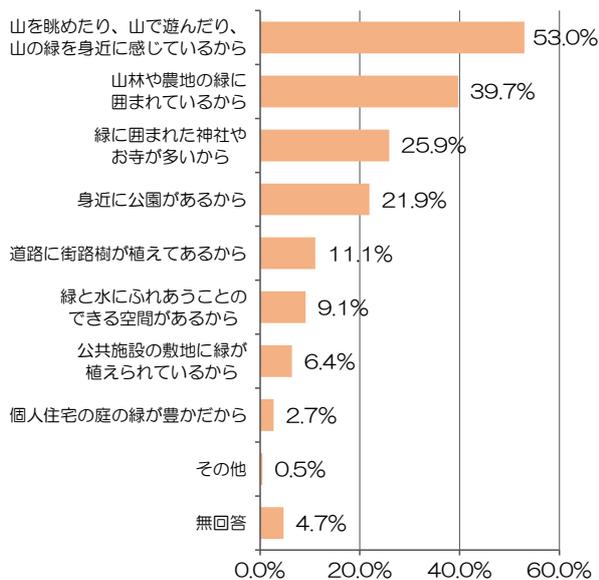
⑤蒲郡市は緑が豊かなまちと思うか



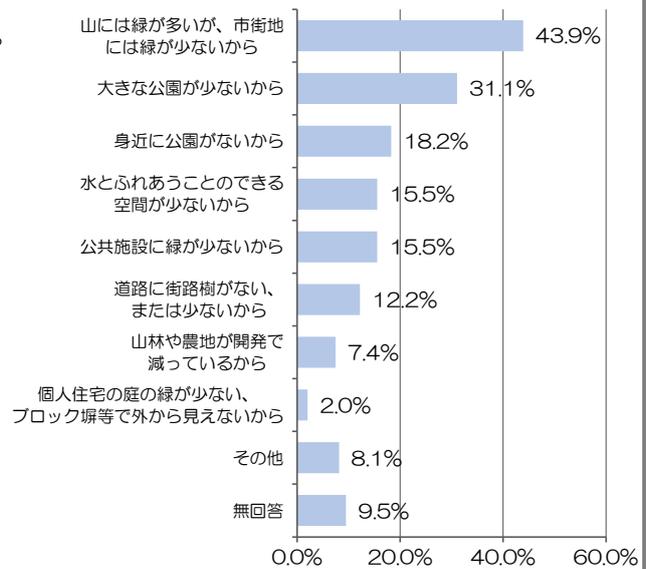
「そう思う」(57.4%)が、「そう思わない」(20.9%)を大きく上回っています。

「緑が豊かなまちと思う」主な理由としては、「山を眺めたり、山で遊んだり、山の緑を身近に感じているから」(53.0%)、「山林や農地の緑に囲まれているから」(39.7%)が多く、山の緑に関する回答が多くなっています。

一方、「緑が豊かなまちと思わない」主な理由としては、「山には緑が多いが、市街地には緑が少ないから」(43.9%)が最も多く、次いで「大きな公園が少ないから」(31.1%)、「身近に公園がないから」(18.2%)と続き、市街地内の緑や公園が少ないという回答が多くなっています。

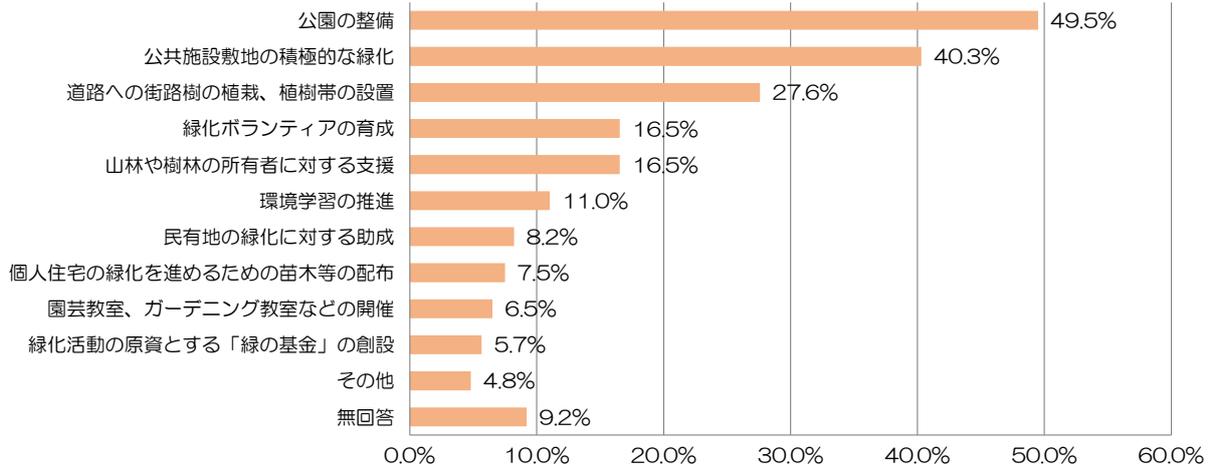


「緑が豊かなまちと思う」主な理由



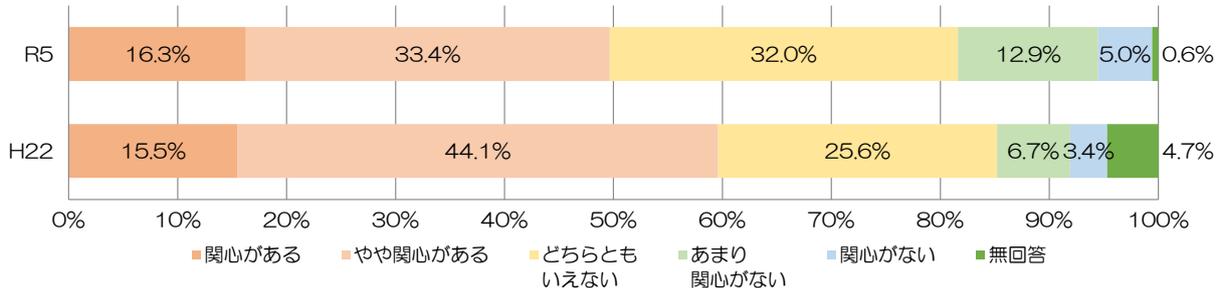
「緑が豊かなまちと思わない」主な理由

⑥ 緑を残すため、緑を増やすために必要な取組み（※ 3つまでの複数回答）



「公園の整備」（49.5%）が最も多く、次いで「公共施設敷地の積極的な緑化」（40.3%）、「道路への街路樹の植栽、植樹帯の設置」（27.6%）となり、施設整備への取組が求められています。

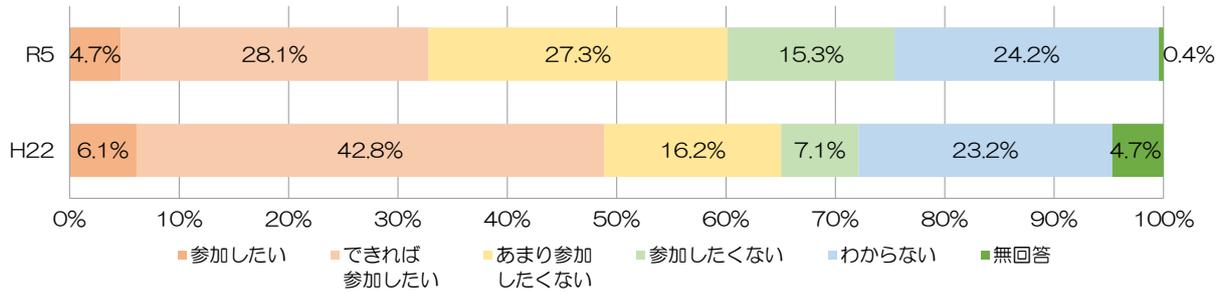
⑦ 緑を残したり、増やしたりする活動への関心



「関心がある」（16.3%）、「やや関心がある」（33.4%）を合わせると約半数の49.7%となり、緑に関する活動に関心がある割合が高くなっています。一方、「あまり関心がない」（12.9%）、「関心がない」（5.0%）を合わせた関心がない回答者の割合は20%未満となっています。

前回調査との比較では、「関心がある」「やや関心がある」の合計が、前は59.6%であったのに対し、今回は49.7%と、10ポイントほど減少しています。また、「関心がない」「あまり関心がない」の合計が前は10.1%であったのに対し、今回は17.9%に増加しています。

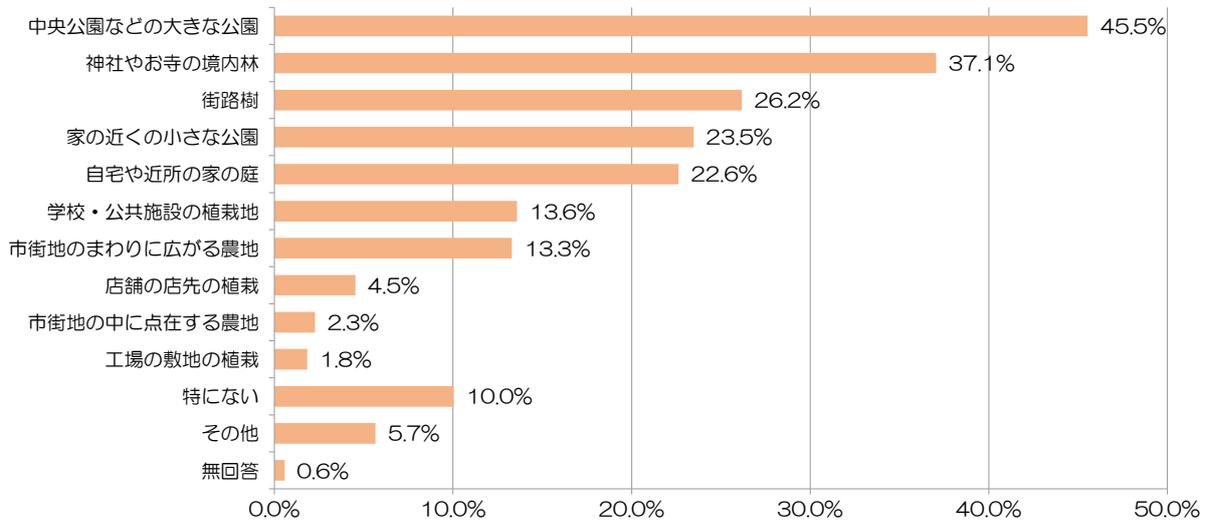
⑧緑を残したり、増やしたりする活動への参加意向



「参加したい」（4.7%）、「できれば参加したい」（28.1%）を合わせると30%あまりで、緑の活動への関心に比べ、参加意向は低くなっています。また、「あまり参加したくない」（27.3%）、「参加したくない」（15.3%）を合わせると40%以上となり、参加に対して否定的な回答が多くなっています。

前回調査との比較では、「参加したい」「できれば参加したい」の合計が、前は48.9%であったのに対し、今回は32.8%と、約16ポイント減少しています。

⑨市内で好きな緑（※3つまでの複数回答）



「中央公園などの大きな公園」（45.5%）が最も多く、次いで「神社やお寺の境内林」（37.1%）、「街路樹」（26.2%）が多くなっています。また、「家の近くの小さな公園」（23.5%）、「自宅や近所の家の庭」（22.6%）といった身近な緑についての回答も比較的多くなっています。